

実技講座

「ローマ散策PartⅡ」関連普及事業
銅版画の実技講座

日 時 = 平成16年2月1日・7日・8日
10:15~16:15

講 師 = 柳本一英 (版画家)
場 所 = 当館実技室・展示室
参加者数 = 45名

展覧会の鑑賞を通してピラネージの作風を学び、その模写を通して今後の銅版画制作のヒントを掴む実技講座を開催した。

「ローマは一日にして成らず」ピラネージが引いた描画の一本一本を丹念に描き写すため、参加者は何度も展示室へ足を運び、作品に目を凝らす。そしてピラネージがその一筆一筆に込めた想いを探る。

プレス機を通さないと作品の出来が解らないのが版画の醍醐味。「あー、ピラネージだ。」この一瞬を体験するためにどんなに頑張ってきたか、そんな思いが零れた一言であった。

「富士山の絵画」関連普及事業
日本画の実技講座

日 時 = 平成15年3月6日・7日・13日・14日
10:15~16:15

講 師 = 三宅太郎 (日本画家)
場 所 = 当館実技室・展示室
参加者数 = 61名

本格的な日本画の制作には、長い修練と制作日数がかかる。参加者のほとんどが初心者であること、開催日数が4日間であることを考え、簡易的な方法で富士山を描く日本画の実技講座を開催した。

使用した画材は、チューブ入りの絵の具 (水干絵の具を練ったもの・膠入り)、F6サイズの麻紙ボード (厚紙に麻紙をはってドーサ引きを済ませた画紙)。スケッチ・下絵・転写・骨描き・彩色という基本的な日本画の制作手順は踏んでいくが、紙をパネル張りする・ドーサ引きをする・膠、胡粉を溶く、絵の具を作るといった本格的な日本画の制作に必要な手順は省いた。

最初は水彩画と日本画の描き方の違いに戸惑う参加者もいたが、何色かを薄く塗り重ね、色の深みと奥行きを出していく日本画の描き方に徐々に慣れ、参加者それぞれが「私の富士」を表現することができた。

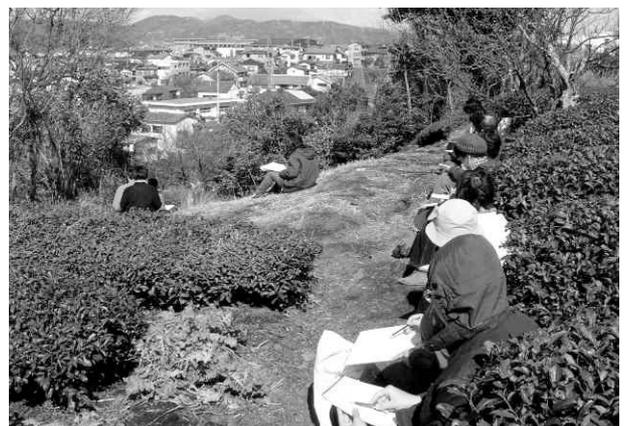
技法セミナー

「生きるの人」鈴木貴博 講演会
静岡New Art「わたしの居場所」展関連事業

日 時 = 平成15年4月19日
14:00~16:00

講 師 = 鈴木貴博
場 所 = 当館実技室
参加者数 = 20名

「生きるの人」と呼ばれている現代美術家・鈴木貴博氏の講演と簡単なワークショップを行った。本講座は、一線で活躍されている作家を招いて、その造形技法について語っていただくものであるが、鈴木氏はその生き様そのものが、作品ともいうべき作家である。氏が世界各国で展開している「生きるプロジェクト」の体験談を聞き、その後、聴講者が自ら墨で半紙に「生きる」と書き、「生きる」ということをあらためて考え直す契機とした。静岡New Art展の関連イベントとして企画された。



日本画の実技講座 美術館の近くで富士山をスケッチする